



徳川美術館 名品コレクション展示

令和6年9月10日(火)~12月15日(日)

展示期間 A:9/10(火)~10/14(月・祝) B:10/16(水)~11/15(金) C:11/16(土)~12/15(日)

凡例:◎は重要文化財・○は重要美術品を示します。

【第1展示室】

武家のシンボル — 武具・刀剣 —

大名はいうまでもなく武士であり、その集団の長であったため、泰平の世の江戸時代にあっても常に軍備を怠ってはならなかった。大名家の武器武具は単なる戦闘実用品ではなく、同時に「武士の心根」を表すように美しく気品に満ちていることが必要だった。中でも刀剣は「武士の魂」といわれる通り、武士の精神の象徴として大切にされ、最も高い格式を持ち、公式の贈答品の筆頭ともされた。大名の甲冑は、一軍の大將の着用品である。武威と気品に満ち、贅を尽くし技術の粋を集めてはた目にも美しく見えるように作られた。

No.	指定 名称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
1	黒塗紺糸威具足	明珍宗貞作 徳川慶勝(尾張家14代)着用	江戸	嘉永2年<1849>	
2	葵紋蒔絵糸巻太刀拵	徳川慶臧(尾張家13代)・義宜(同家16代)所用	江戸	18-19	A
3	梨子地糸巻太刀拵		江戸	17	BC
4	網代軍配団扇	徳川義直(尾張家初代)所用	江戸	17	AB
5	網代溜塗軍配団扇	徳川綱誠(尾張家3代)所用	江戸	17	C
6	三団子形馬標(関ヶ原合戦時使用)	松平忠吉(家康4男)・徳川義直(尾張家初代)所用	桃山	16	
7	青貝柄槍拵 黒塗鞘付 五本		江戸	18-19	
8	火縄銃 二匁五分筒 筒 人物禽獸唐草文象嵌 彫銘“SAM THOME”		江戸	17	A
9	火縄銃 三匁五分筒 銘 刃鉄藤巻張 寛文五年巳三月吉日 芝辻小兵衛清正(花押)		江戸	寛文5年<1665>	A
10	火縄銃 二十匁筒 筒「地」銀象嵌 銘 国友氏正		江戸	文化11年<1814>	A
11	火縄銃 三十匁筒 筒「地」銀象嵌 銘 国友氏正		江戸	文化11年<1814>	A
12	火縄銃 三匁五分筒 銘 刃鉄重張 天和三亥年八月吉日 芝辻小兵衛清正(花押)		江戸	天和3年<1683>	BC
13	火縄銃 三匁五分筒 銘 渡辺佐次右衛門頼次作		江戸	17	BC
14	火縄銃 十匁筒 銘 国友甚兵衛重当作		江戸	17	BC
15	唐銅二百目短筒 銘 延宝二年甲寅七月吉日 辻弥兵衛之種作		江戸	延宝2年<1674>	BC
16	水牛葵紋蒔絵口薬入		江戸	17-18	AB
17	象牙葵紋蒔絵羽箆形口薬入		江戸	17-18	C
18	竹胴薬入		江戸	18-19	AB
19	菖蒲文葵紋付青漆革胴薬入 附 菖蒲文葵紋付青漆革玉袋		江戸	18-19	C
20	御筒方諸事御用留帳 五冊	石黒家寄贈	江戸	18-19	
21	葵紋兵庫鎖太刀拵	徳川宗春(尾張家7代)・宗睦(同家9代)所用	江戸	18	AB
22	白銀造鳥蒔絵毛抜形太刀拵	徳川義宜(尾張家16代)所用	江戸	19	C
23	蠟色塗刀拵	徳川義礼(尾張家18代)所用	江戸	19	A
24	蠟色塗脇指拵	徳川義礼(尾張家18代)所用	江戸	19	A
25	蠟色塗刀拵	徳川家慶(12代将軍)・徳川慶臧(尾張家13代)所用	江戸	19	BC
26	蠟色塗脇指拵	徳川慶勝(尾張家14代)・茂徳(同15代)所用	江戸	19	BC
27	◎ 太刀 銘 光忠	豊臣秀吉・豊臣秀頼・徳川義直(尾張家初代)所持	鎌倉	13	
28	○ 刀 無銘 国俊	梁川(大久保)松平家伝来	鎌倉	13	
29	脇指 額銘 藤島友重	徳川宗春(尾張家7代)・慶勝(14代)所持	室町	15-16	
30	短刀 銘 信長		室町	15	
31	御腰物元帳 坤 二冊の内一冊		江戸	18	
32	後藤光晃三所物折紙 (No.33 紅葉洲流図三所物 附属)		江戸	天保6年<1835>	
33	紅葉洲流図三所物 銘 後藤光美(後藤家15代)(花押)		江戸	19	
34	栗図二所物		江戸	18-19	
35	薄図赤銅鐺 銘 程乗(後藤家9代)作 光美(同15代)(花押)		江戸	17	
36	鶴に波図透鉄鐺 銘 忠時作 大小二枚		江戸	18-19	

【第1展示室の見どころ - 具足飾り -】

大名の甲冑は、一軍を指揮する大將の威厳を示す着用品である。武家の長としての威厳と品格に満ち、贅を尽くし技術の粋を集めて、はた目にも美しく見えるように作られた。展示室入口正面の展示ケースは、名古屋城二之丸御殿の御夜居之間で毎年正月十一日に行われた、「具足飾り」の飾り付けに基づいて展示している。「具足飾り」とは甲冑を飾り、その年の武運を祈願する尾張徳川家の年中行事である。甲冑の向かって右手には「馬標」が掲げられている。「馬標」は陣中や戦場において、大將の居所を示すしるしであった。また、甲冑の後ろに掲げられた葵紋付きの大きな旗は「馬標」と同じ役目があり、「纏」と呼ばれている。